

## リメンバーin岡崎・1月22日

## 次回の遺族会



前号でもお伝えしました「リメンバーin岡崎」の詳細が決まりましたので、改めてお知らせいたします。

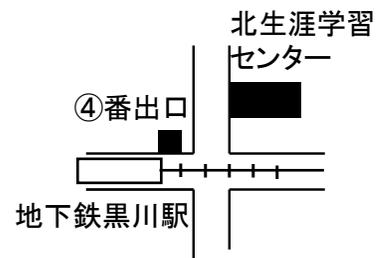
午前は遺族向けセミナー、午後は普段の遺族会と同じ、遺族のわちあいの時間です。

今回は、哲学分野でご活躍の鷺田さんにお越しいただきます「臨床哲学」として、常に身近な課題に向き合っておられる鷺田さんに、わかりやすい言葉で語っていただきます。

今回は託児サービスを予定しています。ご希望の方は、1月8日までにご連絡ください。（専門の業者さんに依頼します）

第49回

12月25日(日)13:15から  
名古屋北生涯学習センター  
地下鉄名城線「黒川」下車  
(4番出口)よりすぐ  
参加費:500円



その次は...

第50回

2月26日(日)北生涯学習センター

### リメンバー名古屋自死遺族の会 in 岡崎

日時: 2012年1月22日(日)

10:30-16:00

内容:

午前・遺族向けセミナー

- 10:30-12:00
- 『死なれるということ』鷺田清一氏
- 前大阪大学総長。大谷大学教授。
- 哲学者。
- 「『聴く』こと力」
- 「死なないでいる理由」など著書多数。

昼・図書コーナー(リメンバー文庫)を開設

午後・自死遺族のわちあひ

- 13:30-16:00
- (13:15~受付開始)
- 普段の遺族会と同じ「わちあひ」を行います。

場所: 岡崎市 岡崎げんき館

- 愛知県岡崎市若宮町2-1-1

託児サービスのご案内

当日、託児サービス(無料)を予定しています。ご希望の方は、1月8日までに、ご連絡ください。

※地域自殺対策緊急強化基金事業

### 12月25日遺族会終了後「望年会」

25日遺族会終了後17時ごろから食事会を行います。リメンバー(憶えている)ということ大切にしている場ですので、「忘」という字を避け「望」年会としています。

### 次回「ディアレスト」のご案内

#### 家族以外の人を 自死で亡くした人の集い

家族ではないけれども大切な人を自死で亡くされた方を対象に、2ヶ月に1回「ディアレスト(Dearest)」が開催されています。

次回は

日時: 1月15日(日)13:30-16:00

対象: 家族以外の人(恋人・婚約者・パートナー・親友・同僚・上司・部下・先輩・後輩・先生・生徒、など)を自死(自殺)で亡くされた方

参加費: 500円

場所: 名古屋市中村生涯学習センター 2F

- 第一集会室

連絡先: [the.dearest1@gmail.com](mailto:the.dearest1@gmail.com)

- <http://dearest.heya.jp>

# 連載 わかちあいって何だろう？

「わかちあいって何だろう？」と題して、遺族の方のインタビューを中心に連載を行っています。

「わかちあい」は、リメンバー名古屋自死遺族の会において、最も大切にしているものです。簡単に言ってしまうと、集まって、話す、ただそれだけのことでありますが、普段なかなか自死について語るができない中で、とても大切な役割を担っていると思います。

参加された方からは、もっといろんな方と話したい、堅苦しいルールがあるから話しにくい

など、さまざま意見もいただいています。また、自分がつらいのに、なぜ他人の辛い話を聞かなければならないのか、聞くことでもっと辛くなってしまふ。話しても何も解決しない、話すことに意味があるのか、という根本的な疑問を投げ掛けられることもあります。

専門的、学術的なことではなく、実際にわかちあいを経験されてきた方の生の声を聞き、これから、もう一度「わかちあい」を見つめ、考えていきたいと思ひます。

## 遺族インタビュー 第4回

—亡くされたのはどなたですか？

妻です。

—参加される前はどんなお気持ちでしたか？

余裕がなく、常に気持ちが焦っていました。

—はじめて参加されたのは亡くされてからどのぐらいしてからでしたか？

半年ほど過ぎた頃だったと思ひます。

—はじめて参加された時にはどんなことを感じましたか？

自分と同じように考えている人が多くいて、一人ではないのだと思ひえるようになりました。

—今までどのぐらい、期間、回数参加しましたか？

1年半の間に7回ほど参加しています。

—どのような思いでわかちあいに参加し、参加することで変わったことはありますか？

誰にも話せなかった思いを共有でき、わかちあいに参加したことで一人ではないのだと思ひえるようになりました。

—あなたにとって「わかちあい」って何でしょうか？

世間では理解をしてもらえない気持ちを共感してもらえるところ。

—ありがとうございました。

※インタビュー（メールで行います）にお答えいただける方を募集しています。

## リメンバーin岡崎・チラシの写真ですが...

チラシに使っている写真は、実は、今回の会場である岡崎市の中心部を流れる「乙川」を「殿橋」から写したものです。写っている橋は東岡崎の駅にほど近い「明代橋」です。岡崎市の方ならよくご存じの風景でしょう。

普段はこのように穏やかな流れも、今年9月の豪雨の時には、かなり水位が上昇したと聞きます。お近くの方、被害などありませんでしたでしょうか。

## 遺族相談のご案内

面接による自死遺族相談(無料)があります。よろしければ、ご利用ください。

### ○愛知県精神保健福祉センター

(愛知県内で名古屋市以外にお住まいの方) ■

要予約 052-962-5377

毎月第3木曜日 午後2時-3時30分

### ○名古屋市精神保健福祉センターこころば

(名古屋市にお住まいの方)

要予約 052-483-2095

毎月第3火曜日 午前10時-12時

## 投稿

今日はクリスマスですね。

さて、クリスマスといえばキリスト教ですが、しばしば「キリスト教では自殺が罪に定められているんですよ」「自殺した人は、天国に行けないんですよ」という声を耳にすることがあります。果たしてそうなのでしょう。

まず、キリスト教の聖典である「聖書」には、自殺が罪であるといった記述は一切書かれていません。

それではどうして、上にあるような事が言われるようになったのでしょうか。それは聖書が書かれてからずっと後の4世紀、ローマ帝国においてキリスト教が広がっていく中で、殉教者があまりに多く出過ぎたため、当時の皇帝が「自ら死を選ぶ」ことを禁止したためとされています。

キリスト教では聖書に書かれている事を唯一、神様の言葉、すなわち「教義」と考えてい

るので、4世紀になって当時の皇帝により「後から」決められたことは、実は「教義」には入らないんですね。

聖書には、私たち一人ひとりを、神様が創られたとあります。そして一人ひとりを、神様は愛しておられます。今ここにいる私達の事も、また結果的に死を選ぶ事になってしまった私達の大切な人達のこと、もちろん愛して下さいます。

そんな、愛して下さいている人達を、罪に定めたり天国に行かせないなんて事は、決してありません。神様は私達を創られる時、従順なロボットではなく、悩み、考え、自分の意志で行動できる自由を与えて下さいました。

たとえそれが自死という形であったとしても、それが理由で神様の愛が途切れてしまうなんて事は、絶対にありません。

クリスマスの恵みが、皆様と共にありますように。(N.K.)

## 「親の会」次回のお知らせ-2月4日

リメンバー名古屋に来られた方の中で、お子様を亡くされた方だけの集まりである「親の会」というものがあります。不定期ですが、集まって話す場を設けています。今回は以下のように行うことになりましたのでお知らせいたします。

「温泉に入ってゆっくり過ごす会(仮)」

■日時:2012年2月4日(土曜日)

■場所:三谷温泉(ホテル松風園)

お昼を食べて温泉に入って6時間

個室でゆっくり語り合い

■費用:5800円プラン+交通費

■申し込み期限:2011年12月末

■申し込み先:リメンバー名古屋事務局(メール・フックス・郵便等で)

お名前(ニックネーム可)、ご連絡先(メール、電話、FAXなど)をお知らせください。

Eメール:remember\_nagoya@yahoo.co.jp

FAX:020-4668-8925

郵便:〒458-8799 緑郵便局留め

リメンバー名古屋宛て



## 秋の遠足行ってきました

2011年11月6日(日)に、第14回秋の遠足ということで、名古屋市農業センターに行ってきました。12名の方にご参加いただきました。雨が降るか降らないか・・・ぎりぎりセーフという感じでした。

写真は農業センターの生まれたてのひよこたちです。

### スタッフ募集

遺族会に参加したことがある方で、会の活動のお手伝いをいただける方募集しています。

遺族会当日に、お茶の買い出し、参加者の案内など、継続的でも結構です。

詳しくはお問い合わせください。

### 新聞郵送をご希望の方へ

1月～6月末までのお申し込み(前期)・・・1000円 もしくは 80円切手13枚

7月～12月末までのお申し込み(後期)・・・500円 もしくは 80円切手7枚

お申込みは、郵便番号・住所・氏名を記入の上ご送金いただくか、切手をご郵送ください。遺族会の当日、受付でお支払いいただいても結構です。

## リメンバー文庫



リメンバー文庫では、遺族の方向けの書籍を集め、遺族会の時などに貸し出しを行っています。今回は、文庫の中から「さよならも言わずに逝ったあなたへ」(カーラ・ファイン 著)を紹介させていただきます。

今回は、思い出深い一冊を紹介したいと思います。私が、大切な人を亡くしてから1年以上経って、初めて読んだ、自死について書かれた本です。

『さよならも言わずに逝ったあなたへ』という題名に惹かれ、「ああ、私も、さよならさえ、言ってもらえなかったなあ。」と思って、図書館から借りました。返還催促の電話が鳴るまで、手元に置いておいた本でした。

本書の冒頭には、自殺が遺族に遺すストレスレベルは、破壊的なもので、強制収容所暮らしに匹敵するものであると、書かれてあります。そのとき、私は昔観た、『シンドラのリスト』という映画を思い出しました。「まさか、あそこに描かれているものが、現実に私の身に降りかかってきたなんて。」時代に翻弄され、死んで逝かねばならなかった人たちのこと。そんなことは、この平和な時代に生まれた私にとって、他人の絵空事だったのです。しかし、本書を読みながら、「強制収容所暮らしに匹敵する、ストレスレベル」という言葉を反芻するたび、あの時代一人間性が究極的に破壊された戦争—を生き延びているような、そんな感覚になったのもまた事実でした。

本書は、アメリカの自死遺族に焦点が当たっています。カーラ・ファインという著者自身が、夫を亡くした自死遺族であり、100人以上のアメリカの自死遺族の「その後」を

取材した結果、生まれた本なのです。それまで、アメリカでも自死遺族の「その後」を記した本というのは、あまりなく、本書は「自死」という断絶に取り残され、日陰の存在として生きてきた、遺族たちの記録の先駆けでもあるのです。

本書を読み進めながら、「遺族の、その後」というのは、国境を越えても同じなのだと思われました。後悔、拒否、怒り、恥辱、繰り返す自己反省—。遺族が抱えるものは、皆同じなのだ。表現こそ、日本人のそれではありませんが、言いたいことは、嫌というほど、伝わってきました。そして、著者カーラ・ファインは、最後に、「自分が愛し、不条理にも喪ってしまった人の人生の生き証人でありたい」と本書を締めくくります。

著者は、自らの経験とそこから得た悟りの中から、自死遺族の抱える問題を分析し、また、遺族の物語をふんだんに取り入れることで「自死」という、究極的な断絶を赦そうとしているのではないのでしょうか。(A.S)

### ★★★★本の紹介★★★★

さよならも言わずに逝ったあなたへ—自殺が遺族に残すもの—

カーラ・ファイン(著)  
飛田野裕子(翻訳)  
扶桑社  
価格: ¥ 1,600

## りめんぼー

年末になると「今年の漢字」が発表されます。今年は「絆」でした。ニュースなどの解説を聞いていると、東日本大震災で人々の「絆」を感じたことが大きな理由のようです。ちなみに1995年、阪神大震災の年の漢字は「震」でした。

もちろん、多くの人の気持ちを一文字にすることは無理なことであり、その一文字から多くの人の気持ちを断定すべきでもないでしょう。しかし、一年を締めくくる言葉として、恐れ、苦しみの言葉である「震」よりも、一般的には肯定的に捉えられる「絆」の方がより多くの人から選ばれたのは少々気になります。

ボランティアや支援の中に「絆」を感じた人も多いことでしょう。失われた「絆」への思いも込められているでしょう。当事者にも「震」は早く忘れてしまいたいという思いもあるのだと思います。それでも「今年はいへんなこともあったが、『絆』を感じる事ができた年だった」と、今なお続いているであろう当事者の苦しみを切り離し、「絆」という美しい余韻に包み隠して、新たな年を迎えようとしていると思えてしまうのは、穿った見方でしょうか。

時に耳にする「がんばれ」「泣かないで」「早く元気になって」のような言葉に相手との断絶を感じることがあります。「苦しみを乗り越えて頑張っている人」を期待され、とまどうことがあります。深い苦しみの淵で泣いている人の隣にじっと座り続けることはたいへんなことです。早く笑顔を見せてほしいと願うのは、決して相手のためだけではないように思えます。

自死によって大切な人との「絆」が失われてしまった遺族。その輪の中で感じる、遺族同士の「絆」は、苦しみの中にあってもお互い隣に座り続けようとするところから生まれるのでしょうか。自分自身、その「絆」の存在に大きな支えを感じると共に、自死した者にこそ本当は必要であった「絆」のことを思う時、その言葉は美しいものではなく、より厳しい重いものとして響いてきます。(KN)